

事業概要：文化芸術に新たな息吹を吹き込む佐賀さいこうプロジェクト

旧制度（推進）

申請者	佐賀県	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	222,700千円 (75,713千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	観光分野
目的・効果	少子高齢化が進む中、地域に活力をもたらすためには、交流人口を増やしていくことが重要。佐賀の豊かな歴史的、文化的な魅力は、移住者や観光客を引き付ける大きなポイントであることから、これらを磨き上げることで、その素晴らしさを県民のみならず広く全国に発信し、地域づくりの根本となる故郷への誇りや愛着、郷土愛を育み、ひいては交流人口を増やし佐賀のまちに活力をもたらす。		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 伝承芸能等の情報発信と併せて記録映像の保存に取り組むことで、次世代に継承していく気運を醸成する。また、文化芸術事業の磨き上げを行い、新たな文化シーンを創造するとともに、公の施設のブランディングを行うことで、交流人口の拡大につなげる。		
	【R8年度事業 経費内訳】 ・映像制作、配信、記録映像保存（委託料）9,034千円 県内各地で行われている伝承芸能を“カッコいい映像コンテンツ”として広く情報発信するとともに、新たな映像コンテンツを制作する。 ・フェスや公演の開催（委託料）41,447千円 県内で開催する文化芸術事業を公募し、アドバイザリーボードによるアドバイスやネットワーク支援等の磨き上げを行う。 ・ブランディング戦略推進、コンテンツ制作等（委託料）25,232千円 公の施設の一体的なブランディングや磨き上げを行うための戦略の推進やコンテンツ制作等を行う。		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値			
	①観光消費額総額（+25.31億円） ②観光宿泊者数（+5.8万人） ③博物館施設等の来館者数（+2.1万人） ④公の施設の来館者（利用者）数（+4.05万人）	URL ※交付金の具体的な使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.pref.saga.lg.jp/list00502.html

事業概要：～社会増加県へ～
子育てし大県“さが” ×DI人材育成・地元循環モデル構築プロジェクト

旧制度（推進）

申請者	佐賀県	初回採択回	令和6年度第1回募集	
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	162,041千円 (52,899千円)	
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	地方への人の流れ分野	
目的・効果	本県独自の教育プログラムを開発し、新たな価値を創造する学びを提供するとともに、地元企業や大学・高専と連携した講座や体験機会を通じて視野や可能性を広げ、産業を変革するデジタルイノベーション人材（以下「DI人材」という）の育成を推進する。これにより、佐賀で活躍するDI人材の地元循環モデルを構築し、社会増加県を目指す。			
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 SAGAハイスクールDI人材育成事業「DI SCHOOL SEIRENKATA」 ○佐賀県DI人材育成事業 地元企業・大学・高等専門学校連携によるDI人材育成プログラムの開発を行い、高校生が「SAGA DI（デジタルイノベーション）Lab」において伴走コーチとともに、DIカリキュラムを学ぶことで、県内のDI人材循環モデルを構築するプログラム制作等を行う ○佐賀県高校生DI選手権大会開催 高校生がLabで学んだデジタル技術をもとに成果発表や知識・技能を競う「佐賀県高校生DI選手権大会」を開催する		<DI人材の育成>  <高校生DI選手権大会> 	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○佐賀県DI人材育成事業 委託料等 49,504千円 ○佐賀県高校生DI選手権大会開催 委託料等 3,395千円			
KPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域のUIターン数（+1,350人） ②SAGA DI Lab参加者数（+150人） ③初年度に受講する「ベーシックプログラム」の修了者数（+135人） ④当該事業修了者の情報系の高等教育機関への進学者数・情報系職種への就職者数（+40人）		URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.pref.saga.lg.jp/list00502.html

事業概要：むしろこれから 鹿島・太良プロジェクト
～唯一無二の地域資源とローカル鉄道を活用した有明海沿線広域連携スローツーリズム推進～

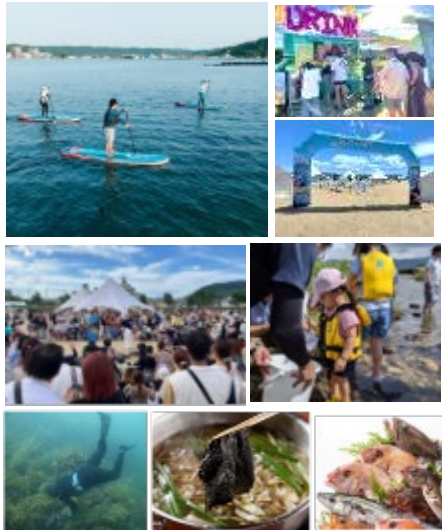
継続

申請者	佐賀県ほか 2 自治体※					初回採択回	令和 7 年度第 1 回募集
事業計画期間	R7-R11年度					期間中の総事業費 （カッコ内はR8年度事業費）	3,453,901千円 （681,480千円）
事業類型	ソフト 事業	✓	拠点整備 事業	✓	インフラ 整備事業		
目的・効果	【本物の地域資源が溢れる有明海沿線地域を一体的にエリアブランディングし、国内外から何度でも訪れたくなる地域へ】 ・鹿島・太良町エリア一体を、“スローツーリズム”の聖地として、ブランディング。 ・肥前鹿島駅エリアは、ツーリズムのフロントとして、新駅舎（“えきやど”駅舎（宿））を核に整備。駅を拠点に、沿線各地に宿泊したり、ガイドブックに載っていない地元飲食店で食事をしたり、有明海の全景を巡るローカル鉄道を楽しんだり、といった地域ブランドを活かした新たな旅を提供し、新たな人の流れの創出や関係人口の拡大を図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 プロジェクトの拠点“KATAラボ”を現地に開設！ 申請自治体職員が常駐し、官民の連携をサポート ・新駅舎のえきやど（宿）等は、地域資源の高付加価値 を得意とする民間事業者グループが独立採算で経営 ・民間事業者グループは、整備に先立ち、公募で決定					鹿島・太良のフロントヘリニューアル！	
	【R8年度事業 経費内訳】 ソフト事業 ○鹿島・太良スローツーリズム ブランディング費用 44,456千円 ・グルメブランディング、地域プロデューサー育成 など（委託料） ○肥前鹿島駅エリア全体プロデュース費用 など 35,257千円 ・新駅舎ブランド戦略・商品開発、稼働運営体制構築 など（委託料等） 拠点整備事業 ○肥前鹿島駅えきやど駅舎（新駅舎）整備費用 575,367千円 ・用地造成、建築物本体工事 など						
主なKPI	①鹿島・太良エリアの観光入込客数（+120万人） ②鹿島市の観光入込客数/鉄道利用者数（+0.1%） ③沿線えきやどの宿泊者数（+16,990人） ④肥前鹿島駅の飲食・物販ゾーンの売上額（+3.3億円） ⑤肥前鹿島駅前まちなかエリアへの新規出店数、新規イベントの開催回数（+18回） ⑥特産品や旅行商品、地域をPRするイベントの新規件数（+34件）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.pref.saga.lg.jp/list00502.html

※佐賀県、鹿島市、太良町の広域連携事業

事業概要：玄海と有明海 さがの2つの海が織りなす新たなにぎわい創出事業
～海と生きる・海で遊ぶ さがの2つの海に親しむ地域活性化プロジェクト～

継続

申請者	佐賀県ほか2自治体※					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	612,377千円 (211,677千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	佐賀県の2つの海がもたらす地域資源を活用し、海業推進や海苔メニュー開発、アクティビティ創出等により交流人口の拡大と地域の賑わいを創出する。気候変動に対応した漁業改善や海況予測高度化、水産資源回復対策を推進し、漁業経営の安定化と資源増加を図る。これらにより、魅力発信と所得・雇用の創出を通じて、漁村人口減少の抑制と持続的な地域発展につなげる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 佐賀県玄海・有明海地域の観光や水産業の振興、地域資源の活用を一体的に進める取組である。海業の創出、佐賀海苔の外食展開、気候変動に対応した漁業改善、リ養殖の高度化、水産資源回復、マリンアクティビティ体験や海辺施設の利活用を通じ、地域の魅力向上と所得向上・雇用創出、漁村人口減少の抑制を図る。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・海辺の体験や交流イベントの企画実施・海辺施設の利活用の推進等 60,109千円。 ・気候変動に対応した漁業の改善や水産資源の回復促進への取組等 148,568千円 ・佐賀海苔の外食機会創出のための情報発信 3,000千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①海に面する市町の人口減少率の改善率（+15%） ②県内漁村（漁港背後集落）での交流人口の増加率（+15%） ③店舗創出件数（+9件） ④玄海、有明海の水産物水揚量または資源量の増加率（+15%） ⑤マリンアクティビティ体験者数（+230人） ⑥伊万里市福田地区内公共施設の利用者数（+3万人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	佐賀県・唐津市・伊万里市 https://www.pref.saga.lg.jp/list00502.html 伊万里市 https://www.city.imari.lg.jp/23314.htm

※佐賀県、伊万里市、唐津市の広域連携事業

事業概要：地域資源の磨き上げ・文化発信による交流人口創出プロジェクト

継続

申請者	佐賀県ほか 2 自治体※						初回採択回	令和 7 年度第 1 回募集
事業計画期間	R7-R9年度						期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	1,478,095千円 (352,353千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業	✓		
目的・効果	佐賀が持つ地域資源を磨き上げ、発信・販路開拓等の支援をすることで、交流人口の増加を目指す。 ・文化的、歴史的資産が大切に継承されるとともに、人々が多彩な文化芸術活動に触れ、佐賀の地から新たな文化が創造されている。また、それらの本物の魅力や唯一無二の体験が国内外に発信され多くの人々を魅了し、県全体が活気づき、新たな交流が生まれている。 ・人々が地域の歴史や文化、自然、豊かな食、伝統など、唯一無二の素晴らしさに気づき、大きな誇りを感じるとともに、地域住民が、自ら、知恵を出し合いながら、地域資源を磨き上げ、自主的・主体的に取り組む自発的な地域づくりが進んでいる。							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 佐賀酒の発信強化や飲食店との連携で一般消費者の接点を広げ、需要創出と販路拡大を図る。料理人向け拠点整備や学生向け研修会等による次世代人材の育成と定住を促進。鍋島焼や有田焼の価値発信、海外展開支援により産地の売上向上を目指す。DX導入やストーリー構築で地域資源のブランド力を高め、歴史・文化の魅力発信やイベント開催で郷土への誇りを醸成する。さらに吉野ヶ里公園の利用者を起点に交流人口拡大と観光消費拡大につなげる。							
	【R8年度事業 経費内訳】 ○海外市場を主とした販路拡大への取組の強化 116,944千円 ・鍋島焼の歴史、技法、価値の情報発信 ・海外進出に意欲のある事業者の商流確立のための支援 ・新たなやきものファンを創出するためのコンテンツ造成 等 ○吉野ヶ里歴史公園周辺エリアへの周遊促進 22,000千円 ・情報発信や地域の食商品とのコラボ企画等のプロモーション活動 等							
主なKPI	①観光消費額（+ 25.2億円） ②県産品の輸出額 伊万里・有田焼（+ 1.74億円） ③国内外飲食店等との新規取引件数（+ 30件） ④DX認定 件数（+ 9件） ⑤博物館施設等の来館者数（+ 2.2万人） ⑥吉野ヶ里歴史公園来訪者数（+ 24.6万人）						URL	https://www.pref.saga.lg.jp/list00502.html

※佐賀県、神崎市、吉野ヶ里町の広域連携事業

事業概要：誰もが活躍できる まちづくりプロジェクト
～さがらしい、やさしさのカタチ「さがすたいる」の推進～

継続

申請者	佐賀県					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	250,599千円 (91,830千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	年齢や性別、国籍、障害の有無などの「ちがいを尊重し合い、自然に支え合う「さがすたいる」を広げ、誰もが暮らしやすく活躍できる佐賀県を目指す。バリアフリー情報の発信や交流イベント等を通じてその想いを浸透させるとともに、日本語研修支援等により外国人の活躍と定着を促進し、多文化共生社会を推進する。さらに、手話・要約筆記の人材育成や就労支援により障害者の活躍の場を広げるほか、子ども目線を取り入れた安全なまちづくりを進める。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 さがすたいるの理念を広げる情報発信や交流イベント、多文化共生に向けた外国人の日本語学習支援等を通じて、誰もが安心して暮らし活躍できる地域づくりを推進する。あわせて、手話・要約筆記人材の育成や障害者の就労機会創出により、多様な活躍の場を拡大する。さらに、子ども目線を取り入れた安全な歩行環境づくりを進め、誰にとっても暮らしやすいまちづくりを実現する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ①さがすたいるの想いを広げる 36,938千円 街なかにある店舗や施設のバリアフリー、スタッフのサポート情報など安心して外出できる情報の発信、出前講座、様々な方が自然とまざりあうきっかけづくりの交流イベント等を実施 ②多文化共生社会の推進 37,402千円 日本語研修を実施する外国人受入事業所に対する支援等により、県内事業所で働く外国人の定着を促す。 ③障害者の多様な活躍の場づくり 9,963千円 手話や要約筆記の学習機会を提供することで、手話や要約筆記に携わる人材の確保とすそ野を拡大する。障害福祉事務所等と企業のマッチングイベントを開催する。 ④子ども目線に配慮したまちづくり 7,527千円 前年度作成したマニュアルにより通学路点検を実施し、県内市町へ展開する。						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①人口の社会減（転出超過）の縮小（▲450人） ②相談窓口への登録企業数（+170企業） ③セミナー・マッチングイベントへの参加企業数（+180企業） ④日本語研修を実施する事業所数（+40事業所） ⑤さがすたいるの認知度（+9%） ⑥子ども目線を取り入れた点検実施箇所数（+6箇所）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.pref.saga.lg.jp/list00502.html

事業概要：佐賀県産業振興好循環創出プロジェクト

継続

申請者	佐賀県					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	2,060,151千円 (688,139千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	高校生をはじめとする若者に対して、県内企業における職業体験等により県内企業のすばらしさを伝えるとともに、就業機会の提供等も合わせて行うことで、県内産業を好循環させていくための基盤となる若者の県内への定着及び県内企業への就職の促進を図る。 人材の育成・確保に向けて、企業人材等へのリスキリング支援、身につけたスキルの県内での活用、佐賀型スタートアップ支援による気鋭のスタートアップの育成・創出等の取組により、県内企業等で活躍する人材を育成・確保し、企業活動を強化させ、県内産業の好循環を加速させる。 若者等に「佐賀の企業で働きたい」と思ってもらうため、県内の成長産業や特色ある産業等の魅力向上や競争力向上を図り、より魅力的な企業を創出し、産業の活性化と雇用の創出の更なる好循環を構築する。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ・若者の県外流出や県内企業の魅力・競争力の課題に対し、意識醸成と定着促進を図り、人材の育成・確保と企業力強化による好循環の創出を目指す。 ・高校生をはじめとする若者への現場見学や就業機会の提供、小中学生から大学生までの段階的な施策により、県内就職と還流を促進する。 ・あわせて、リスキリング支援や佐賀型スタートアップ支援等により人材育成・確保を進め、企業活動を強化することで、県内産業の好循環を構築する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○若者に対する県内企業への意識の醸成、定着促進 194,987千円 県内の小中高高校生に対し、それぞれのフェーズに応じた施策を行う ・小学生や中学生を対象に、出前講座やワークショップ ・大学生等を対象に半導体関連企業の工場見学ツアー 等 ○県内企業等で活躍する人材の育成・確保 127,840千円 ・即戦力DX人材の育成のための講座の開催 ・生成AIを活用した業務変革人材育成セミナーを開催 等 ○県内企業の魅力向上・競争力向上推進 365,312千円 ・企業のデザインリテラシーを図るためのたセミナーを開催 ・GXモデル企業創出のための伴走支援 ・コスメティック構想を中核に異業種を巻き込んだビジネスコミュニティを形成等						
主なKPI	①県内企業における入職者数（+390人） ②県内高校生の県内就職率（+3%） ③県内製造業における付加価値額（355.88億円）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.pref.saga.lg.jp/list00502.html

※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値

事業概要：スポーツDX・アスリートウェルネス推進プロジェクト

継続

申請者	佐賀県						初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度						期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	901,072千円 (610,162千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業			
目的・効果	・アスリートがデータとスポーツ医科学に基いた効果的・効率的なトレーニングや身体管理を行うことで、故障や健康問題に悩むことなく競技人生を送り、活躍し続けられる育成環境を整備する。 ・アスリートにとって魅力的な育成環境の充実強化を図り、アスリートが活躍することで、本県のスポーツによる地域づくりのプレゼンスが高まり、県外からのアスリートや指導者等の流入、定住促進や県の交流人口増加につなげる。							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 大学等と連携し、スポーツ医科学に対する選手・指導者・専門家の関心や重要性の認識、また、知識を向上させる取り組みを医療界・大学・企業などと連携して多角的に展開することにより、スポーツ医科学が普及・定着する「仕組み」を作り上げていき、アスリートが健康的で効果的に競技を続けることが出来る環境を整える。							
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 スポーツ医科学普及 ・フィットネスチェック 27,182千円 ・女性アスリート支援 21,567千円 ・栄養サポート支援 9,145千円 ・スポーツ医科学委員会 500千円 ・セルフチェックアプリ活用 5,500千円 ・医科学トレーニングモデル育成施設への機器導入 8,327千円 ○拠点整備事業 スポーツ医科学施設整備 ・建物の模様替等 395,941千円 ・測定機器の導入 160,887千円							
主なKPI	①人口の社会減（転出超過）の縮小（+1,050人） ②アスリート等の流入者数（+210人） ③スポーツ医科学支援事業を利活用した指導者・アスリート等の数（+350人）						URL	https://www.pref.saga.lg.jp/list00502.html
※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値						※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL		

申請者	佐賀県					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	317,882千円 (184,656千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・誰もが気軽に訪れ、日常的に憩い・交流しながらスポーツに親しめる「ひろば」を整備するとともに、イベントや分かりやすい案内環境を整えることで、日常的なにぎわいの創出を図る。 ・スポーツに親しむ方を増やし、スポーツ体験機会の拡大により裾野が広がるとともに、交流人口の増加と回遊性向上が図られ、子供から大人まで多様な世代が日常的に憩い賑わう交流拠点として、SAGAサンライズパークの交流効果を地域に波及させ、周辺地域の交流人口の拡大と賑わいの創出につなげる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 普段からSAGAサンライズパークを利用される方や家族連れなど誰もが気軽に利用でき、公園のような日常的な憩いの場、賑わいの場となるとともに気軽にスポーツを楽しむことができるようひろばを新たに整備する。 屋外用バスケットコートや多目的に使用できるスポーツコート等の日常的に憩うことができる外構の整備工事を行う。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・SAGAサンライズパークにおける賑わい創出・スポーツ体験イベント開催事業 6,884千円 ・「ひろば」を加えたSAGAサンライズパークのサイン設計 2,900千円 ○拠点整備事業 ・SAGAサンライズパーク中央ひろば（仮称）の整備 174,872千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①SAGAサンライズパーク周辺校区の人口（+193人） ②SAGAサンライズパークの利用者数（+29,561人） ③ひろばでのイベント年間開催件数（+12件）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.pref.saga.lg.jp/list00502.html

事業概要：ルート・グランブループロジェクト

新規

～ルート・グランブルーを「観光ルート」として認知させ、人や車の流れを呼び込み地方経済の再生を図るプロジェクト～

申請者	佐賀県、佐賀県唐津市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 （カッコ内はR8年度事業費）	371,420千円 （125,966千円）
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	【唐津の海辺のルートのブランド価値が認められ、国内外から人が集い、観光産業を基軸として地域経済の再生が図られる】 ・新たな海辺のルートとして独自のブランド価値を再定義し、唐津の海辺の物語性や独自資源、さらには海辺の特色を活かしたブランディングとイメージ醸成に向け、佐賀県と唐津市が共同で本プロジェクトに取り組む。 ・一体的な事業展開により、国内外からのエリアへの観光誘客と周遊を促進し、観光消費額の創出と観光消費単価の増加に繋げる。 ・ひいては、ルート沿線やその周辺のブランド価値が認められ、飲食店をはじめ唐津市の観光産業の基盤強化につながり、観光産業が地場産業（基幹産業）として発展するとともに、得られた観光消費額の恩恵が限定的でなく地域へ裨益している状態を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ブランディング及び海辺のイメージ醸成を段階的に進める。 ブランディングに基づくエリアの受入環境づくりを推進し、海辺のイメージ訴求と情報発信の強化をはじめ、海辺のロケーションを活かしたプレミアム体験イベント等を通して、その魅力を体感させ、地域に根付くツーリズムのスタイルを確立させる。						
	【R8年度事業 経費内訳】 佐賀県 ・Instagramの新設・デジタルマーケティングの実施 : 4,000千円 ・ルート・グランブルーロゴ活用事業（補助金） : 1,500千円 ・ツール・ド・九州開催時期観光促進型のサイドイベント : 28,721千円 ・PLAPLAのオープンに合わせたイベントの実施 : 4,521千円 ・海洋プラスチック問題の聖地化 : 9,780千円 ・ルート沿いのオリジナルサイン製作設置 : 18,300千円 唐津市 ・海辺の特色と食等を活かしたプレミアムイベント開催 : 25,000千円 ・地域住民向けのイメージ醸成 : 11,698千円 ・シェアサイクル周遊事業 : 8,828千円 ・地元イベントと連動させた周遊企画 : 902千円 ・海辺の食を中心とした特産フェア等の開催 : 7,146千円 ・タッチパネル式デジタルサイネージ導入 : 3,071千円 ・ルート沿いの離島航路のサイン設置 : 2,499千円						
主なKPI	①観光消費額（71.71億円） ②観光客数（宿泊者及び日帰り観光客数の総数）（+129万人） ③訪日外国人のべ宿泊数（+3.25万人） ④エリア内周遊率（+9%） ⑤ルート・グランブルー関連情報閲覧数（+100万件） ⑥ルート・グランブルー認知度（+50%） ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	（交付金の具体的使途・実施体制） （効果検証） https://www.pref.saga.lg.jp/list00502.html

事業概要：SAGA Woman Canvas ―私が私を描く―プロジェクト

新規

申請者	佐賀県					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	124,458千円 (65,026千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	固定的な性別役割分担意識やアンコンシャス・バイアスについて考え、気づきへとつなげるとともに、女性のモチベーションの向上やビジネス領域での積極的なチャレンジを後押しすることで、様々な価値観を持つ女性が佐賀でいきいきと暮らし、希望する形で自己実現していく環境を目指す。これにより、女性が住みやすく、はたらきやすい環境が整い、輝ける女性が増えることで、男性を含めた社会全体への好影響をもたらし、産業発展や雇用拡大、人口動態改善につなげ、ひいては地方創生の拡大につなげる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 女性が自らの生き方・はたらき方を描き、前に進んでいけるよう、女性を後押しする取り組みを実施することで女性自身の具体的な行動につなげていく。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ・もんだプロジェクト（6,820千円） 「それは女性（男性）がやる“もんだ”」といった女性の居心地の悪さや自分が希望する生き方をあきらめてしまう要因の一つになっていると思われる固定的な性別役割分担意識やアンコンシャス・バイアスの事例を募集することを通じて、県民にアンコンシャス・バイアス等について考えるきっかけや自分事として捉える機会を提供し、あたりまえだと思っていたことが必ずしもそうではないという気づきへとつなげる。 ・SAGA×WOMAN EXPO2026の開催（28,930千円） SAGA×WOMAN EXPO2026を開催し、多様な価値観を持つ佐賀の全ての女性に向け、学びにつながるセミナーや県・企業のブース出展による情報発信により、女性のモチベーション向上を図る。 ・女性のためのキャリアトークカフェ（15,559千円） 悩みの共有やロールモデルとの出会い、女性同士の交流などを通じた「刺激」「気づき」の場を提供し、自身のキャリアに向き合うとともに自己実現のための活動意欲を高める。 ・SAGA Woman Work Designプロジェクト（13,717千円） 佐賀を、もっと女性がやりたい仕事に挑戦し、実現できるフィールドにするため、ビジネススキルアップ、人脈構築など、起業やキャリアアップを目指す女性のチャレンジを後押しする。						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	① 20代女性の転出超過の縮小（－60人） ② キャリアトークカフェ参加者満足度（+0.75%） ③ 各種アワードへの挑戦者の増（+12人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.pref.saga.lg.jp/list00502.html

事業概要：「自発の地域づくり」による地域振興プロジェクト

新規

申請者	佐賀県					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	395,000千円 (45,000千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	佐賀県で取り組んでいる「自発の地域づくり」による地域振興は、県内に広がりつつある。さらに地域経済へ波及させるため、令和10年開催の「山の博覧会」に向けて地域づくり活動を活性化させ、大会を契機に飛躍させることで、移住者（地域おこし協力隊）の増加や若年層の定着を促進し、地域経済の維持・発展につなげる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 地域づくり活動が魅力的なものであれば、活動に関わる人が増えることから、今回の事業においては、県内各地での活動やそれに関わる人をさらに増やしていくため、活動の磨き上げ（専門家派遣）や研修等の実施を通じ、団体活動の基盤強化を行う。 また、地域づくり活動を県内外に広く周知することで、地域活動の担い手確保の好循環を創出する。 あわせて、地域づくり活動を多くの方に知ってもらい、体験してもらうため、令和10年に、「山の博覧会」を開催。佐賀の地域づくり活動に興味を持ってもらい、県内を周遊する方を増やしていくための起爆剤とし、観光消費額の増加を図る。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・地域づくりの創出・磨き上げを行うとともに、自発の地域づくりや「山の博覧会」の機運醸成のため、あらゆる媒体を通じた戦略的な情報発信を行う。 45,000千円						
主なKPI	①県外からの移住者数（+60人） ②社会増減数（+150人） ③地域おこし協力隊の着任数（+45人） ④地域づくりに参画する若い世代の数（+15人） ⑤観光消費額（+16.68億円）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.pref.saga.lg.jp/list00502.html

申請者	佐賀県					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	67,000千円 (49,000千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・ローカル5G等による高付加価値な体験創出を通じ、観戦・消費の高度化を図り、地場産業の付加価値向上を目指す。 ・衛星データやAIを活用したインフラ管理モデルを確立し、新たな事業機会の創出により、地場産業の付加価値向上を目指す。 ・実証を起点に民間参画と外需獲得を促進し、域内外の需要を取り込みながら、地域経済の持続的な拡大を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ①ローカル5Gと8K映像・多チャンネル音響を活用した没入型観戦体験の実証 SAGAアリーナを中心にプロスポーツ観戦の付加価値を高め、来場者満足度向上や交流人口拡大、域外消費の増加を通じて地域サービス産業の活性化につなげる。 ②衛星データとドライブレコーダー映像、AI解析を組み合わせたスマートインフラ実証 先端技術を用いた道路インフラ管理の新たなモデルを構築し、スマートインフラ分野の技術検証や商機創出の場を県内に形成することで、関連企業の参入促進と産業基盤の強化を図る。 ③「デジタル実証フィールドさが」の周知と企業誘致 県が先端的な実証に積極的なフィールドであることを発信し、技術系企業との接点創出や実証案件の誘致を促進する。これら三つの取組を相互に連動させることで、技術・人材・事業の集積を促し、新産業の創出と地域経済の持続的な成長につなげる。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・ローカル5G×プロスポーツによる新たな体験型シアター実証（委託料）31,000千円 ・衛星データ活用実証事業（委託料）11,000千円 ・デジタル実証フィールドさがの取組周知（委託料）7,000千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①1人当たり県民所得（+100千円） ②スポーツチームの平均入場者数（+500人） ③AIによる異常検知精度（+10%） ④デジタル実証フィールドさがへ期待する県民の割合（+20%） ⑤県と民間企業の協業による実証事業数（+2件）					URL ※交付金の具体的用途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.pref.saga.lg.jp/list00502.html

事業概要：さがそう！佐賀市の「あたりまえハッピー」プロジェクト

継続

申請者	佐賀県佐賀市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	226,000千円 (80,000千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	「佐賀には何があるの?」と聞かれたら、「なーんもなかよ・・・」ではなく「なんでんあつよ!」と答えるまちあたりまえハッピー（地元の人にとってはあたりまえすぎて気づけない、このまちのしあわせ）を市全体に浸透させ、市民から観光客へと佐賀市の魅力が伝わる、「ヒト」が原動力となった、佐賀ならではの経済好循環を生み出す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 「あたりまえハッピー」の浸透を軸に、市政情報への接触機会の向上と観光客への認知機会の促進を相互に連携して展開し、市民のシビックプライドの醸成、バルーンブランドの強化、市民目線での情報発信、観光体験の創出を通じて、本市の魅力を内外に広げ、観光誘客や消費拡大につなげる。					市民も、観光客もターゲットにした観光プロモーションへ。 例えば、『佐賀ラーメン』 佐賀ラーメンには、生卵トッピング。 やさしいとんこつのおいしさは、このまちだけのしあわせ。 市民には… 観光客には… 確かに、佐賀ラーメンは唯一無二。あたりまえすぎて気づかなくなっていただけで、食のしあわせにあふれたまちに住んでいるんだな…  外の人に教えてたい! なるほど、佐賀ラーメンというのがあって、地元の人はこちらで楽しんでいるのか。 佐賀に行って、実際にトッピングして食べてみたい!	
	【R8年度事業 経費内訳】 ソフト事業 ○「あたりまえハッピー」プロモーション事業 ・「あたりまえハッピー」プロモーション（委託料）12,500千円 ・「あたりまえハッピー」市民発信定着化（委託料）18,000千円 ○バルーンブランド強化プロモーション事業 ・バルーン係留体験搭乗キャラバン（委託料）2,500千円 ・バルーンブランド強化プロモーション（委託料）6,000千円 ○インナープロモーション推進事業 ・市政情報デジタル広報推進（委託料）7,000千円 ・市政情報特集記事等作成（委託料）6,000千円 ・インナープロモーションプラットフォーム構築（委託料）12,500千円 ○価値ある観光体験事業 ・観光アンバサダー（委託料）1,500千円 ・観光カタログ（WEBサイト）運用（委託料）6,000千円 ・観光客向け「あたりまえハッピー」プロモーション（委託料）8,000千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①観光消費額（+18億2,820万円） ②佐賀市を観光地として推奨できる市民の割合（+3.50%） ③市政情報を入手できている市民の割合（+2.90%） ④観光入込客数（+46万8,090人） ⑤観光カタログ（WEBサイト）閲覧数（+40,000件） ⑥「あたりまえハッピー」として発信するトピック数（+52件）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.saga.lg.jp/shisei/sagashioshiru/2/3/4044.html

事業概要：産学官民で佐賀の未来を創る！
クリエイティブイノベーター育成による地方創生プロジェクト

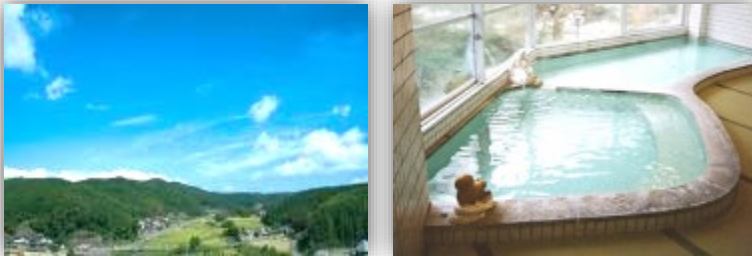
継続

申請者	佐賀県佐賀市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	84,128千円 (28,740千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・市内企業のイノベーション創出やスタートアップ創出に向け、20～30代の若者を主な対象として、「課題の発見から解決策の提案まで行えるクリエイティブ人材」の育成を、産学官民連携、地域全体で取り組む。 ・若者のアイデアとスキルの磨き上げとコミュニティ拡大を掛け合わせることで、クリエイティブな若者の活躍による市内企業の稼ぐ力の強化や地域課題・事業課題の解決による地方創生を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ①想像力と創造力を育むクリエイティブイノベーター養成講座、アントレプレナーシップ（起業家精神）を培うビジネススクール、②映像、3DCGやIT、デザインなどの技術をビジネスマインドとともに学ぶ総合クリエイティブ人材育成講座、③市内企業と連携しながら実案件に取組む実務ワークショップ（OJT）、の3つのステップでビジネスでの実践力を重要視したプログラムを実施する。					つながることで、可能性は跳ね上がる CREATIVE LINK SAGA クリエイティブなイノベーション力 を身に付ける佐賀市独自の人材育成モデル 3つのステップで実践力を培く！ 幅広い人脈 STEP1 起業家精神・想像力・創造力 STEP2 ビジネスマインド・デジタル技術 STEP3 実務経験 コミュニティ・ネットワーク	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業経費 ・クリエイティブ人材育成事業 アントレプレナーシップ養成講座（委託料） 1,300千円 クリエイティブイノベーター育成講座（委託料） 2,488千円 経営者向け新事業創出勉強会（委託料） 1,040千円 総合クリエイティブ人材育成講座（委託料） 4,565千円 実務ワークショップ（委託料） 8,550千円 ・コミュニティ形成、トータルサポート 年次報告会等（謝金、旅費、会場料等） 470千円 コミュニティ形成、事業全体のトータルサポート（委託料） 9,224千円 ・ソフト事業と連携する備品経費 総合クリエイティブ人材育成講座(PC借上料) 1,103千円						
主なKPI	①新規雇用者数（+40名） ②市内での開業・創業件数（+17件） ③（黒字化した）新事業創出件数（+15件） ④パートナー企業数（+30社） ⑤受講者数（+35名） ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.saga.lg.jp/sangyo-o-machizukuri/sangyo-rodo/1/3/3961.html

事業概要：佐賀市インバウンド観光ブランド構築事業

新規

申請者	佐賀県佐賀市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	101,800千円 (41,800千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	佐賀市の象徴であるバルーンを核に地域資源を体験型観光として高付加価値化し、インバウンドを含む域外需要の獲得を通じて地場産業の収益力向上を図るとともに、民間主体による持続的な事業展開を可能とすることを目的とする。これにより、地域経済への付加価値創出と波及効果が見込まれる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 本事業は、佐賀市の象徴であるバルーンを核に、伝統工芸や一次産業、食文化などの地域資源を活用した体験型観光として磨き上げ、高付加価値な商品として提供することで、インバウンドを含む域外需要の獲得と地場産業の収益力向上を図るものである。あわせて、体験商品の造成、多言語対応、予約導線の整備を一体的に進め、来訪前から選ばれる仕組みを構築することで、観光消費の質を高め、民間主体による持続的な事業展開につなげる。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・「バルーン」を核とした体験型観光創出事業 企画・モニター実施等 (委託料)11,000千円 ・バルーンミュージアムインバウンド対応整備事業 デジタルコンテンツの導入設置費用等 (委託料)16,500千円 ・地域資源を活かした高付加価値体験創出事業 企画・FAMツアー等 (委託料)11,300千円 ・多言語対応・受入環境整備 (委託料)3,000千円						
主なKPI	①観光消費額(年間) (+18億2,820万円) ②インバウンド宿泊客数 (+5,612人) ③造成ツアーへの参加人数 (+80人) ④バルーンミュージアムへのインバウンド客入館者数 (+362人)					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.saga.lg.jp/shisei/sagashioshiru/2/3/4044.html

申請者	佐賀県佐賀市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	43,200千円 (9,900千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・豊かな自然、温泉、アクティビティなど、佐賀市の様々な「山のポテンシャル」を活かすことで、地域の活力が向上し、魅力が高まり、交流人口が拡大していくことで、関係人口の創出にもつなげていく。 ・将来的には、民間投資、起業も活発になり、若者が地域内で働き続けられる雇用が創出され、人口が減少するなかでも地域経済の好循環を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ・広報手法のブラッシュアップ等を行い、地域資源の付加価値を高めることで、来訪者の増加を図る。 ・体験・食・特産品等を通じた満足度の高い滞在を促進することで、リピーター、ファンの創出を図る。 ・メインターゲットを対象とした来訪意向の醸成及び情報取得行動の検証を目的とした実証プログラムを実施する。 ・地域事業者の情報発信能力向上を図る。					 地域資源を発掘！磨き上げ！発信！ ↓ 交流人口から関係人口へ ⇒ さらには地域経済の好循環へ	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・アドバイザー業務（委託料） 5,900千円 外部専門家の助言・支援を活用し情報発信や観光コンテンツを強化することで、北部中山間地域の交流人口拡大を図る。 ・観光情報発信事業（委託料）4,000千円 中山間地域の観光資源を連携させ、PR動画やSNS広告による発信で認知向上と行動喚起を図る。						
主なKPI	①中山間地域の観光消費額（＋7億3,500万円） ②市全域の観光消費額に対する中山間地域の観光消費額の割合（＋7.5%） ③中山間地域の観光施設等への入場者数（＋15万6,000人） ④福岡市からの来訪者数（＋50万7,000人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.saga.lg.jp/shisei/sagashioshiru/2/3/4044.html

※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値

申請者	佐賀県佐賀市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	64,000千円 (20,800千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	地域住民同士による子育ての「頼みたい・手伝える」を可視化できる「子育てシェアアプリ」を佐賀市公式スーパーアプリと連動させて導入することで、当事者間でのスムーズなマッチングを可能にし、公助では届かない隙間を共助によって補うシステムを構築して子どもを産み育てやすい環境をつくり、人口減少の抑制を図る。また、「子育てシェア」による「共助」をきっかけに地域コミュニティを強化するとともに、市内企業と連携しながら地域課題を継続的に支え、地域経済を担う人材を育成することで、地場産業の人材確保に資する取組とする。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 地域住民同士による子育ての「頼みたい・手伝える」を可視化できる「子育てシェアアプリ」を佐賀市公式スーパーアプリと連動させて導入する。アプリ利用者として、子育て支援を支える地域の担い手を発掘・育成し、市内企業と連携しながら子育てシェアの体験型イベントを実施することにより保護者や地域住民を巻き込む取り組みを行う。この事業を通じて子育て世代が働きやすい環境を整え、子育てと仕事を両立しやすいまちを実現し、地域の企業の生産性の向上及び就業者の増加につなげる。					「子育ての困りごと」を「住民のチカラ」で解決！ 子育てシェアを『アプリ』で管理 リクエスト、調整、履歴管理をデジタル化し、当事者間によるスムーズなマッチングを実現 知人・友人 近所の住民 ボランティア 学生 子育て支援活動者 子育て中の保護者 こどもと保護者 体験型イベントで地域住民を巻き込む 担い手となる人材を発掘し、育成する 社会で子育てをシェア	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・子育て支援の担い手となる人材を発掘、育成（委託料）7,200千円 ・子育てシェア体験、地域住民向けイベントを実施（委託料）6,800千円 ・子育てシェアアプリを導入し、市公式アプリへ連携（委託料）6,800千円						
主なKPI	①佐賀市の人口（▲4,017人） ②子育てに不安や負担を感じる市民の割合（+3%） ③本事業における子育て支援成約件数（+145件） ④本事業を通じた子育てシェア登録者数（+800人） ⑤佐賀市産業支援相談室の創業者数（+6人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.saga.lg.jp/shisei/sagashioshiru/2/3/4044.html

事業概要：柳町・松原エリア滞在・回遊創出事業

新規

申請者	佐賀県佐賀市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	34,740千円 (10,000千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・柳町・松原エリアが持つ歴史・文化資源の魅力を引き出し、「市民も観光客も通年で歩き、集い、交流し、滞在できる“城下のにぎわい拠点”」としての価値を高める。 ・その実現に向け、来訪動機の創出、滞在時間の延伸、回遊行動の増加を促進することで、人の流れと消費行動を生み出し、地場産業の付加価値向上と地域内経済循環の強化につなげる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 柳町・松原エリアに集積する歴史的建造物や文化資源を核として、公募型イベントの実施、回遊環境の整備、戦略的な情報発信、官民連携による推進体制の構築を一体的に実施する。 これにより、従来は単点利用にとどまりがちであった来訪行動を、エリア内での「滞在・回遊・体験・消費」が連動して生まれる交流構造へと転換し、通年で人の流れと賑わいが生まれるエリア形成を図る。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・滞在・回遊促進事業 公募型滞在回遊促進イベント（補助金・委託料）2,400千円 回遊環境形成装飾（委託料）1,100千円 ・情報発信事業 複数媒体を組み合わせた情報発信（委託料）4,510千円 情報発信のアドバイザー招聘（委託料）990千円 推進体制構築（補助金）1,000千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①観光消費額（+18億2,820万円） ②歴史的建造物の活用率（+5.5%） ③情報発信インプレッション数（+120万回） ④柳町エリア来訪者数（6,000人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.saga.lg.jp/shisei/sagashioshiru/2/3/4044.html

申請者	佐賀県唐津市					初回採択回	令和7年度第1回募集	
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	145,813千円 (47,960千円)	
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業			
目的・効果	地域経済を活性化し、雇用の創出、イノベーションの促進、社会課題の解決を図るため、スタートアップコミュニティを形成し、新たな価値を創出する企業や未来をけん引する企業の発掘・育成を進めるとともに、人材・資金・ネットワークの集積や産業間連携を通じて地域全体の競争力を高め、人口減少下においても持続的に発展し生き残るまちづくりを推進する。							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 事業を始めたい、始めたばかりの起業家、投資家、アドバイザー等の情報交換、意見交換、交流できるリアルな場の形成、提供、運営、セミナー、ピッチコンテスト等のイベントの開催などをおこない、新たな価値の企業、未来をけん引する企業の発掘と育成するとともに、大学等との連携強化、事業を支える資金供給に向けたVC等専門家との連携を図る。					【コミュニティスペース運用イメージ】		【事業者商談イメージ】
	【R8年度事業 経費内訳】 ソフト事業経費 ○スタートアップ創出支援事業 ・ビジネスマッチングやアクセラレーション支援プログラム ・創業間もない方、これから起業を目指す方を対象とした交流会や相談会 ・国内外で稼ぐ力がある人材の高度化のためのデジタル人材育成 等 ○スタートアップコミュニティ運営業務（委託料）46,210千円 ・賃借施設管理負担金（負担金）1,460千円 ・施設修繕、消耗品費（需用費）290千円							
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域における有効求人倍率（月間有効求人数/月間有効求職者数）（+0.03倍） ②スタートアップコミュニティへの参加者数（+60人） ③市の創業支援による創業者数（+72人） ④スタートアップコミュニティで開催するイベントへの参加者数（+800人） ⑤スタートアップ創出支援事業を通じた資金調達件数（+9件） ⑥スタートアップ創出支援事業を契機とした創業者数（+3人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL		https://www.city.karatsu.lg.jp/page/47922.html

申請者	佐賀県唐津市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	58,565千円 (17,434千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	住民の生活に必要な公共交通機関である路線バス及び乗合タクシーの持続可能な交通体制の確保に努めるとともに、交通弱者を中心とした人々の生活を支える交通を維持し、日常生活や観光における利便性向上を図る。 公共交通の維持・利便性向上により、住民の安定した移動手段が確保されるとともに、観光客の利用環境の改善が進み、地域の定住促進や交流人口の拡大につながる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 住民の生活を支える持続可能な公共交通体制の確保に向け、路線バスや乗合タクシーの維持に努めるとともに、AIを活用したデマンド交通の導入により利便性の向上を図る。また、運転士不足に対応するため関係機関と連携した確保対策や免許取得支援を進めるとともに、タクシー配車アプリの導入等により観光客を含めた利用環境の改善と地域交通の充実を図る。					【オンデマンドシステム運用イメージ】 	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業経費 生活路線バス等運行対策事業 路線バス及び乗合タクシーの利便性を向上するとともに、持続可能な交通体制の確保に取り組むもの。 ・オンデマンドシステムの導入（補助金）17,434千円						
主なKPI	①公共交通の利用者（+2,463人/日） ②路線バス1人あたりの財政負担額（▲63.3円） ③オンデマンドシステムの登録者数（+979人） ④配車アプリを導入したタクシーの車両数（+54台）					URL	https://www.city.karatsu.lg.jp/page/47922.html
						※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	

事業概要：チームかしたら ローカルSDGs推進事業

旧制度（推進）

申請者	佐賀県鹿島市、太良町	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	54,724千円 (14,660千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	ローカルイノベーション分野
目的・効果	ローカルSDGsを推進するため、「チームかしたら リビングラボ」を開設し、官民連携によるまちづくりを進めるとともに、地域資源とデジタル技術を活用して第一次産業の付加価値向上とレジリエンス強化を図り、新たなビジネスや市場の創出を促進する。地域経済・観光経済の活性化や収益力向上が進むとともに、広域連携による人材・資源の補完と外部人材・資金の流入が促進され、持続可能で安全・安心な地域づくりの実現につながる。		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 鹿島市と太良町が共同で進めるリビングラボの自走化を図るもの。 住民・企業・団体・行政が協働して創出した地域課題解決型の事業に対し伴走支援を行い、地域全体のSDGs推進と持続可能な官民共創モデルの定着を目指す。また、鹿島市と太良町の基幹産業である第一次産業の持続可能な発展のために多良岳と有明海の環境課題を改善する事業を行う。		
	【R8年度事業 経費内訳】 ・SDGs普及啓発事業 ・リビングラボから創出した事業への補助金 600千円 ・多良岳と有明海での環境教室 2,400千円 ・Jクレジット事業 2,960千円 ・観光と第一次産業従事者を呼び込むための事業（旅人とのマッチング）900千円		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画 における「KPI増加分の累計」 の目標値	①チームかしたらリビングラボから生まれたローカルSDGs事業（+13件） ②肥前鹿島干潟SDGs推進パートナーの企業数（+15社） ③新事業における新規雇用者数（延べ）（+4人） ④太良町有林クレジットの販売の収入（610万円）	URL ※交付金の具体的使 途・実施体制・効果検 証の結果及び改善方策 への反映が記載されてい るURL	https://www.city.saga-kashima.lg.jp/main/38524.html

旧制度（推進）

申請者	佐賀県鹿島市	初回採択回	令和6年度第2回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	21,480千円 (2,000千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	・市制施行70周年の節目を契機にシビックプライドを醸成する取組を推進する。この取り組みにより鹿島に対する誇りと鹿島に住む一住民として地域の発展に関与する意識を向上させる。 ・若い女性を中心とした「リビングラボ」の中で、鹿島市の特長・魅力を訴求、情報発信。 ・連携協定を締結している報道機関（出版社・新聞社）とともにデジタルを始めとしたさまざまな媒体を使った効果的な情報発信を行い、都市圏へ情報発信することで、鹿島出身者の関心をひき、ふるさと納税の増加による資金の流入を目指す。		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ・市民参加型のまちづくりを市内外に発信し、観光・関係人口の増加、移住・定住促進につながる事業の実施を行う。 ・アンバサダー制度の創設と、WEBでの発信によるアウトタープロモーションの展開 ・空き家リフォーム補助金の情報等、移住促進に特化した情報提供 【R8年度事業 経費内訳】 市民参加型のまちづくりを市内外に発信し、観光・関係人口の増加、移住・定住促進につながる事業の実施を行う。 市民参加型の戦略的シティプロモーション実施（委託料）2,000千円 かしまに関わりのある人 かしまに関わりのない人		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域へのUIターン数（+30人） ②自慢できる魅力がある市民の割合（+23%） ③中高生の高校・大学卒業後に何年か市外に住んだあと鹿島市に住みたい人の割合（+28%） ④鹿島市の認知度（+48%）		
	URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.saga-kashima.lg.jp/main/38524.html	

事業概要：自然共生サイトを核としたネイチャーポジティブ×地方創生事業

新規

申請者	佐賀県鹿島市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	26,714千円 (8,454千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	自然共生サイトの価値を最大限に活用し、生態系の改善、一次産業との共存、体験観光の高度化、企業連携を一体的に推進することで、「地方創生型の好循環モデル」の構築を図るとともに、一次産業の持続性向上や担い手確保、交流人口の拡大、民間資金の導入を通じて、地域産業の付加価値向上と自走的な資金循環を実現し、地域経済循環の形成を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 本事業は、自然共生サイトを核に、生態系の科学的モニタリングの可視化、麦・海苔・カモの共存モデルの実証、里山・水路・干潟をつなぐ回遊型体験プログラムの展開、デジタル技術を活用した市民参加型調査の推進を行うとともに、共感型の情報発信や企業連携による資金循環の仕組みを構築し、交付金終了後も自走可能な運営体制の確立を目指す。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ・自然共生サイトを核とした事業 モニタリング調査費委託料（淡水域、感潮域、昆虫類、鳥類など）774千円 自然共生サイト案内看板設置委託料（2基）518千円 リーフレット印刷費 287千円 ・干潟交流館を核とした事業 自然共生サイトDX活用推進事業999千円（市民調査データ作成委託500 千円、デジタル機器リース499千円） ・情報発信強化事業 5,097千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①関係人口・交流人口の増加数（自然共生サイト来訪者等）（+2,000人） ②生態系改善指数（二枚貝密度、底質改善度、透明度 等）（+110%） ③一次産業共存効果（麦・海苔・カモ）（+30%） ④市民・関係人口の参画数（市民調査参加者、体験参加者、保全活動参加者等）（+600人） ⑤民間資金導入額（企業連携による資金調達額）（+600万円） ⑥関係人口転換数（フォロワーから行動に移った人）（+300人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.saga-kashima.lg.jp/main/38524.html

事業概要：「I♡URESHINO」新たな交流拠点の誕生を契機に 取り組む未来技術を活かした観光まちづくり事業

旧制度（推進）

申請者	佐賀県嬉野市	初回採択回	令和4年度第1回募集
事業計画期間	R4-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	401,978千円 (29,400千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・Society5.0型	事業分野	観光分野
目的・効果	・2022年度に開業した新幹線駅と道の駅の同時開業を、交流人口の拡大に活用しようと企てる取り組み ・旅マエの興味喚起や旅ナカの回遊喚起、旅アトの再訪問意向を高めるVR・AR技術を活用したサービスの提供 ・旅ナカの来訪者の移動を支えるモビリティサービスの提供 ・サービス利用時に取得したデータを蓄積、新たな観光戦略等への利活用を図るデータプラットフォームの構築		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 未来技術（VR/AR技術、自動運転等）を活用した地域実装事業に取り組むことで、観光面の交流人口の拡大を図るとともに、交流人口の拡大がもたらす“ひと”の流れを活かした既存産業の再生・新産業の創出による雇用の維持・確保を促し、人口減少が進む地方都市の人口流出の抑制、流入拡大を目指すものである。	 ▲花火大会のライブ配信 ▲賑わいを見せた自動運転試乗会 ▲LINEで展開するECサイト“嬉野商店”	
	【R8年度事業 経費内訳】 ①嬉野の魅力为全国・全世界に発信する環境づくり ・デジタルモール・バーチャルモールの構築（5,500千円） ・デジタルモール・バーチャルモールのコンテンツ作成（7,000千円） ・来訪者と生産者をオンラインで結ぶコミュニケーション環境構築（11,900千円） ②5G技術等を活用した各種データの収集・提供（5,000千円）		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①観光客数（+50万人） ②嬉野観光情報のWEB発信に対する利用者数（+19,000件（PV）／月） ③自動運転サービスの利用者数（+1,600人／月） ④18歳～29歳の定住意識（+8%）	URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.ureshino.lg.jp/s-hisei/keikaku/_24664/_27940.html

事業概要：書×アート。感性を生むまち小城市プロジェクト

新規

申請者	佐賀県小城市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	6,000千円 (1,000千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・中林梧竹生誕200年を機に、地域資源を活用したイベント実施し、また情報発信することで、東京都や海外等からの誘客を目指す。 ・イベント等の開催にあたり、市民や地元の学生、企業等と連携し、イベント企画や地場産品の付加価値向上等を図る。 また、これらの事業活動を通し、市内外からの観光客を呼び込み、地域への経済効果の拡大を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 小城市は豊かな自然と観光・文化資源を有しているが、日本さくら名所100選に選ばれた小城公園の花見の時期に観光客が集中していることから、花見の時期以外に小城市へ人を呼び込むことができるよう、これまでのスポーツ面での交流人口の取り組みの他、文化的な視点で既存コンテンツの見せ方を工夫するなど、市の新たなイメージ作りを行い、情報発信をしていく。 誘客のターゲットについては、「書に関心を持つ層」と「一般層」の2軸とし、各ターゲットへアプローチを図ることを目的に、市内外へプロモーションを行い、小城市内への誘客につなげる。また、「（小城市の様々なもの）×アート」をテーマとした施策（イベント等）を実施することで、書を始めた様々なコンテンツ及び「おぎしブランド」の定着を目指す。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・市公式ホームページ内に特設サイトの創設、PR用動画の制作及び発信（補助金）662千円 ・事業期間中のシンポジウム等の開催に係る運営委託（委託料）338千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①小城市観光消費額（+1,280万円） ②対象施設の年間来場者数の合計（+2,600人） ③東京都から佐賀県への来訪者のうち、県内自治体における小城市の構成比率（+3.0%） ④特設サイト閲覧数（+15,000PV） ⑤市公式インスタグラムのフォロワー数（+1,809回）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.ogi.lg.jp/main/18227.html

事業概要：神崎市旧庁舎跡地整備事業

新規

申請者	佐賀県神崎市						初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R9年度						期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	1,449,291千円 (344,823千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業			
目的・効果	・旧庁舎跡地を「市の中心拠点」として、多世代が集う交流の場を整備するとともに、長崎街道や櫛田宮などの歴史・文化資源や地域資源を活かした「学・遊・食」の体験価値を高める観光交流拠点を創出し、産業振興・雇用創出・販路拡大を図る。 ・交流人口・関係人口の増加や回遊性の向上により、中心市街地の賑わい創出や地域経済の循環を促進するとともに、起業・雇用機会の創出、コミュニティ形成、市民生活の質向上を通じて、持続的な地域活性化と「ウォーカブル」なまちづくりの実現につなげる。							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 本市中心地域に位置する旧庁舎跡地を活用し、子育て世代からシニアまで多世代が集う憩いの場となるとともに、多様な人々の出会い・交流を通じて豊かな生活を実現できるコミュニティ形成の場となる「神の杜テラス」を整備する。 あわせて、チャレンジショップや物販・飲食、体験機能を備え、観光と産業振興を一体的に推進する施設とする。さらに、防災倉庫や避難機能を備え、平時の賑わいと有事の安全を両立した拠点を整備する。							
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・建物設計額 32,910千円 ・建築物本体工事監理 5,046千円 ・建築物本体工事 128,090千円 ・外構設計額 35,796千円 ・外構工事監理 6,422千円 ・外構工事 136,559千円							
主なKPI	①関係人口・交流人口数（+2万6,000人） ②周辺校区人口増（社会増）（+70人） ③施設年間利用者数（+1万9,000人） ④施設を利用した年間イベント数（+15回） ⑤特産品の消費額（+1,300万円）						URL	令和8年度12月公表予定
							※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	

申請者	佐賀県基山町					初回採択回	令和7年度第2回募集			
事業計画期間	R7-R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	31,878千円 (10,944千円)			
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業				✓	
目的・効果	・交通安全施設整備等の取組を紹介する動画を映画館や町HPで上映することで、町内外へ安心・安全なまちづくりの周知を図る。 ・スケアード・ストレート方式による交通安全教室の実施により、町全体の交通ルール・マナーの意識向上を図る。 ・交通事故の加害者・被害者共になりやすい高齢者に向けた講習などを行うことで事故の発生を防止する。 ・防犯カメラの設置により、通学路上の主要な交差点等での犯罪発生の抑止を図る。									
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 安心・安全なまちづくりを行うため、交通安全の意識向上に資する対策としてスケアード・ストレート方式による交通安全教室を実施する。また、各種交通安全施設の設置や安心・安全なまちづくりを紹介する動画を福岡都市圏の映画館で上映し、広く周知する。 その他、通学路の安全を見守る対策として、防犯カメラを設置し、町全体の安心・安全を促進する取組を実施する。					 【スケアード・ストレート方式による交通安全教室】			 【福岡都市圏の映画館でのPR動画上映】	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 交通安全教室の継続実施や動画発信、ながらパトロールにより安全意識を高め、安心なまちづくりと移住促進につなげる。 ・安心・安全な基山町PR事業（委託料） 2,365千円 ・交通安全教室の実施（委託料） 1,443千円 ・交通事故の予防啓発（委託料） 1,430千円 ・防犯カメラの設置（備品購入費） 4,320千円 ・ながらパトロール事業（備品購入費） 1,386千円					 【防犯カメラの設置】				
主なKPI	①町内人口数（+150人） ②町内世帯数（+345世帯） ③町内の年間交通事故発生件数（▲15件）					URL		https://www.town.kiyama.lg.jp/kiji0036525/index.html		
※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値					※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL					

※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値

事業概要：「kiyamaプライド」醸成推進事業

継続

申請者	佐賀県基山町					初回採択回	令和7年度第2回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	133,960千円 (56,130千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	町内外からの移住・定住ニーズを喚起し、「住みたい」「訪れたい」と思わせる魅力的な地域社会の実現をめざす。本町に関わる全てのステークホルダーのシビックプライド＝「kiyamaプライド」を核とし、多世代共創による持続可能なまちづくりを戦略的に推進することを目的とする。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 町内外の企業との雇用マッチングや創業支援を通じて新たな雇用と産業の創出を促進し、若年層や移住者の定住を支援する。福岡都市圏との交通利便性を活かし、季節ごとのイベントに連動したシティプロモーションを展開。子育て世代や若者世代に向け、町の魅力を効果的に発信し、地域間競争力を高める。地域の歴史・自然資源を活用した「基山らしさ」の再発見と発信、プロスポーツ応援事業、SAGA2024国スポレガシー事業を通じて、町民の誇り＝“kiyamaプライド”を育み、持続可能で自立的な地域づくりを推進する。また、街路などの里親制度を推進し、幼少期からの町への愛着と住民の交流機会の創出により、町の魅力度、認知度向上を図る。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業経費 ・kiyamaプライド醸成のための認知度向上とずっと住み続けていただくための事業 37,740千円 ・ふるさと基山町を守り継ぐための事業 10,170千円 ・町のシンボル「基山（キザン）」や歴史資源の認知度向上によるkiyamaプライド醸成事業 8,220千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①社会動態による人口増（UIターン数）（+450人） ②交流人口（+300万人） ③関係人口（+29,384人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.kiyama.lg.jp/kiji0036527/index.html

事業概要：上峰町CSO活動支援を軸とした多世代交流拠点整備事業

継続

申請者	佐賀県上峰町					初回採択回	令和7年度第2回募集
事業計画期間	R7-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	1,724,500千円 (233,900千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	CSO活動支援を軸とした多世代交流拠点を整備し、そこを軸として地域セクターの多角的な取組みを推進、支援することで人口維持・人口減少の低減と、各種課題（人口減少や少子高齢化、住民ニーズの多様化等）に対応できる柔軟性のある仕組みを構築し、自立して活力ある共助の地域社会の実現を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 大型商業施設跡地の再開発事業（上峰町中心市街地活性化事業）の一環として、CSO活動支援拠点や商業テナント、教育施設、こどもや家庭の支援拠点、体育施設、図書館等を一体的に整備し、相互の連携を通じてCSO活動の促進と人口減少時代に対応できる持続可能な地域の体制を新しく構築する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 CSO活動支援を軸とした、商業・教育・子育て支援・体育・図書館等の機能を一体的に複合化し相互連携を促進する多世代交流拠点の新規整備 ・建築物本体工事 233,900千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①本町の人口（+300人） ②安心して子供を産み育てる環境が整っていると感じている人の割合（+12.5%ポイント） ③本町のCSO活動組織数（+12組織） ④CSOが連携した活動数（+12件） ⑤CSO活動拠点の相談対応件数（+600件） ⑥本施設来場者数（+80,000人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.kamimine.lg.jp/kiji003150/index.html